

大学等名	徳島工業短期大学
プログラム名	徳島工業短期大学リテラシーレベルプログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

情報処理特論の2単位を取得する事

必要最低科目数・単位数

科目

単位

履修必須の有無

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報処理特論	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報処理特論	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報処理特論	2	○	○	○					

⑦ 「活用にあたっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報処理特論	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報処理特論	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・Society5.0、ビッグデータ、IoT 「インターネットについて」(2回目)
	1-6	・AI最新技術の活用例(生成AI) 「インターネットについて」(2回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ・実験データ 「インターネットについて」(2回目)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費) 「インターネットについて」(2回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析:予測、パターン発見 「データ・AI活用」(3回目~4回目) ・データ可視化:複合グラフ 「データ・AI活用」(3回目~4回目)
	1-5	・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、) 「実データを用いた演習」(5回目)

(4) 活用に当たった様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues) 「情報モラルと情報セキュリティについて」(14回目) ・個人情報の保護 「情報モラルと情報セキュリティについて」(14回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、登用、プライバシーの保護 「情報モラルと情報セキュリティについて」(14回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性) 「情報モラルと情報セキュリティについて」(14回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数) 「実データを用いた演習」(6回目) ・データの分析(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻度) 「実データを用いた演習」(6回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データの表現(棒グラフ、折れ線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図) 「実データを用いた演習」(7回目) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト) 「実データを用いた演習」(7回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの取得 「実データを用いた演習」(6回目～7回目) ・データの集計 「実データを用いた演習」(6回目～7回目) ・データの並び替え、ランキング 「実データを用いた演習」(6回目～7回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

コンピュータの基礎知識を学ぶとともに、現在進行中の社会変化や活用されているデータやデータの活用領域について学習することができる。また、活用に当たった様々な留意事項を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をすることができる。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数
(令和6年5月1日時点)

男性 86人 女性 6人 (合計 92人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数												
自動車工業学科	92	80	160	6	4											6	4%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	92	80	160	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	4%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

学校教育学部教務委員会は、本学の「教育課程の編成及びその実施」、「内部質保証」に関する事項を取り扱うこととしており、本プログラムの推進について議論・評価を行う。

教務委員会は本学の「教務課程の編成及び改編」、「自己点検並びに評価」に関する事項を取り扱うこととしており、本プログラムの推進について議論・評価を行う。

⑦ 具体的な構成員

教務課長 准教授 櫛田 直人
 ALO 教授 後藤 靖司
 学科長 教授 廣瀬 博文
 実習課長 講師 谷 良

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	4%	令和7年度予定	20%	令和8年度予定	25%
令和9年度予定	30%	令和10年度予定	35%	収容定員(名)	160

具体的な計画

オリエンテーション時にこの「情報処理特論」についての授業内容を説明している。また一年次に行われている「情報処理」の授業内でも告知を行い、履修者の向上を目指している。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

学科の定員は80名であり、パソコン教室は40台のパソコンを要してあり週2回授業を実施すれば一学年全員が受講することが出来る。ただ現在は受講人数が少なくため、週に1コマの授業実施となっている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

一年次に行われる「情報処理」の授業で今回申請した「情報処理特論」の周知を行っている。本学に入ってくる学生のパソコン能力は学生毎にレベル差が大きいため、「情報処理」ではパソコンの操作及びソフトの使い方を覚える授業から取り組んでいる。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

授業外でもパソコン教室や就職支援室、図書館のパソコンが利用可能で、予習復習が行えるようにしている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

オフィスアワーを設置して授業時間外の質問等に対応している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

自己点検・評価委員会	
(責任者名) 後藤靖司	(役職名) 教授

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	現在、選択科目ということもあり、履修状況は芳しくないが、オリエンテーション時による説明や、関連授業などでの授業紹介によって履修率を上げていきたいと考える。
学修成果	学修成果は総合評価から判定している。総合評価の平均値は78点(100点満点)となっており、概ね学習成果が挙げられたのではないと思われる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	アンケート結果から算出している。アンケートの質問項目の「先生の授業の内容を理解できた」という項目では「思う」が60%、「やや思う」が40%とすべての学生から概ね理解できたということが確認されている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	受講生に対する授業アンケートにおける、後輩学生への推奨については確認していない。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	全学生が受講できるようにパソコンなどの設備の充実は図っており、パソコン教室には40台ほどのパソコンがあるため、学生自身がパソコンを所有していなくても受講することができる。また他大学でパソコン関係の授業を行っていた教員が赴任して来ており、より専門的な授業を行える予定である。それらを学生に知らせ履修者向上に繋げるためにオリエンテーション時や関連授業なのでの告知を粘り強く行っていく必要があると思われる。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>卒業生調査は1年後、3年後、5年後と実施しており、本教育プログラムを卒業した進路先の把握は可能である。</p> <p>毎年、就職先の企業にアンケートを実施しており、意見を頂いている。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意味」を理解させること</p>	<p>論理ばかりでなく、実際に活用できる事柄を授業に盛り込むことによって、実際の生活に活用できること体験してもらう。それをもって学ぶ楽しさを体感してもらうように務めている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>学生のレベルに応じて授業内容を柔軟に変化させるようにしている。</p>

2024 年度

講 義 要 綱

Syllabuses



自動車工業学科
自動車工学専攻



TOKUSHIMA
COLLEGE OF
TECHNOLOGY

T→COT

授業科目名	情報処理特論			必修	選択	開時	講期	2年後期		
認定科目	ナンバリング	SM22065	単位数	2	担教	当員	藤井 健二			
授業の概要	情報通信技術(ITC)の利活用について学ぶとともに、AIデータサイエンスの基礎を実践的に体験し、マクロについて学習する。 パソコン検定3級の資格を取得を目指す。									
到達目標	1	AIデータサイエンスについて体系的に学習する。								
	2	VBAの基本的な機能を学習し、簡単なマクロを実行させることができる。								
学習成果との関連	3	情報通信技術(ITC)を理解するとともに、パソコン検定3級の取得ができる。								
		①	○	②	△	③	○	④	△	
履修・準備学習の留意点	週・回	授 業 内 容	準 備 学 習				準備学習時間			
						予習	復習			
	1	コンピュータの知識について	コンピュータについてプリントで復習する				0.5	1.5		
	2	インターネットについて	社会で起きている変化について学ぶ 社会で活用されているデータについて学ぶ				0.5	1.5		
	3	データ・AI利活用	データ利活用の事例の予習				0.5	1.5		
	4		データ・AI利活用のための技術を学ぶ				0.5	1.5		
	5		データ・AIを活用したビジネスモデルを学ぶ				1	1		
	6	実データを用いた演習	時系列データの可視化(Excel)予習しておく				1	1		
	7		平均の算出とその可視化(予習しておく)				1	1		
	8	Excel(VBA)について	VBAを学ぶ(VBAについて予習しておく) プリントP1~P7				1	1		
	9	Excel(VBA)による課題作成	変数と四則演算について復習する プリントP7~P12				0.5	1.5		
	10	Excel(VBA)による課題作成	For Nextについて復習する プリントP12~P13				0.5	1.5		
	11	Excel(VBA)による課題作成	最終行の取得について復習する プリントP13~P15				0.5	1.5		
	12	Excel(VBA)による課題作成	条件分岐について復習する プリントP15~P17				0.5	1.5		
	13	Excel(VBA)による課題作成	条件分岐について復習する プリントP18~P22				0.5	1.5		
	14	情報モラルと情報セキュリティについて	データ・AI利活用における留意事項を 予習しておく				1	1		
15	タイピングのトレーニング	タイピング練習(予習)・総括(復習)				1	1			
履修・準備学習の留意点	コンピュータの基礎知識を学ぶとともに、現在進行中の社会変化や活用されているデータやデータの活用領域について学習する。また、活用に当たっての様々な留意事項を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする。 VBAにより簡単なマクロを作成できることを目指す。									
評価方法	期末試験:50%、ルーブリック評価:50%(意欲・関心、態度、課題提出)									
教科書 & 参考書	作成プリント									
関連科目										

学習成果 ①専門的知識、理解 ②コミュニケーション能力、論理的思考力等 ③豊かな人間性等 ④課題解決能力等
学習成果との関連 到達目標は学習成果を達成するのに ◎特に重要な科目 ○重要な科目 △望ましい科目

2024 年度

講 義 要 綱

Syllabuses



自動車工業学科
自動車工学専攻

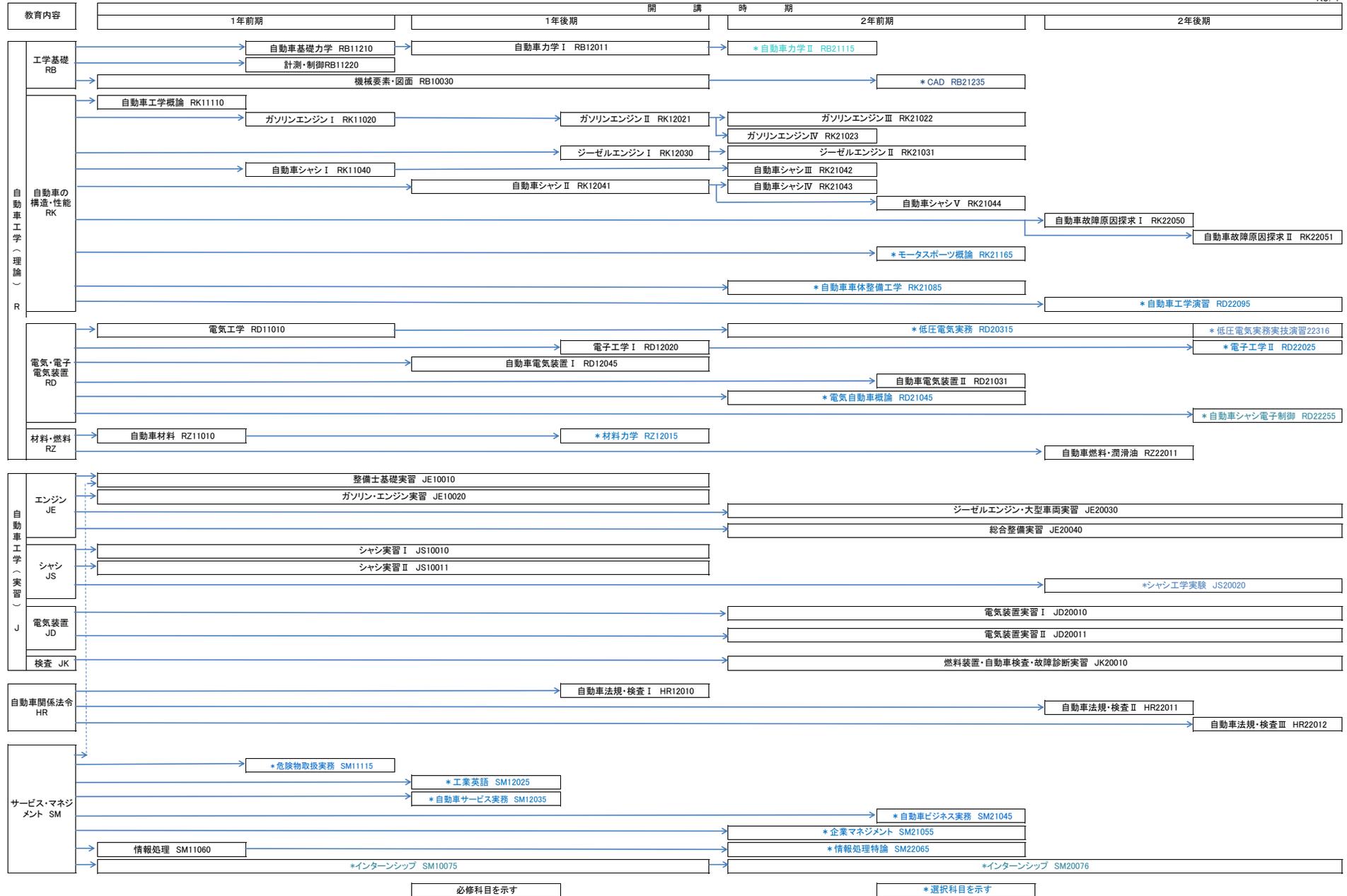


TOKUSHIMA
COLLEGE OF
TECHNOLOGY

T→COT

専門科目における教育内容と授業科目との配置及びナンバリング(自動車工業学科)

R5_1



必修科目を示す

*選択科目を示す

授業科目	単位数		認定 科目	講義	実験 実習	1年				2年			
	必修	選択				前期		後期		前期		後期	
						前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
計測・制御	1		○	○			○						
自動車電気装置Ⅰ	2		○	○				○					
自動車電気装置Ⅱ	1		○	○						○			
自動車法規・検査Ⅰ	1		○	○				○					
自動車法規・検査Ⅱ	1		○	○							○		
自動車法規・検査Ⅲ	1		○	○								○	
自動車故障原因探求Ⅰ	1		○	○							○		
自動車故障原因探求Ⅱ	1		○	○								○	
自動車工学概論	1		○	○		○							
工業英語		1		○				○					
自動車サービス実務		1		○				○					
自動車ビジネス実務		1		○						○			
自動車工学演習		2		○								○	
CAD		1		○						○			
材料力学		1		○				○					
モータースポーツ概論		1		○						○			
自動車車体整備工学		2		○						○			
電気自動車概論		2		○						○			
低圧電気実務		3		○						○	○		
低圧電気実務実技演習												○	
危険物取扱実務		1		○			○						
情報処理特論		2		○						○			
企業マネジメント		2		○						○			
シヤン工学概論		2			○					○			
整備士基礎実習	1		○		○	○							
ガソリンエンジン実習	1		○		○	○							
シヤン実習Ⅰ	1		○		○	○							
シヤン実習Ⅱ	1		○		○	○							
電気装置実習Ⅰ	1		○		○						○		
電気装置実習Ⅱ	1		○		○						○		
ジーゼルエンジン・大型車両実習	1		○		○						○		
燃料装置・自動車検査・故障診断実習	1		○		○						○		
総合整備実習	1		○		○						○		
インターンシップ		1											**

認定科目：二級自動車整備士認定科目

授業科目名	情報処理特論			必修	選択	開時	講期	2年後期	
認定科目	ナンバリング	SM22065	単位数	2	担教	当員	藤井 健二		
授業の概要	情報通信技術(ITC)の利活用について学ぶとともに、AIデータサイエンスの基礎を実践的に体験し、マクロについて学習する。 パソコン検定3級の資格を取得を目指す。								
到達目標	1	AIデータサイエンスについて体系的に学習する。							
	2	VBAの基本的な機能を学習し、簡単なマクロを実行させることができる。							
	3	情報通信技術(ITC)を理解するとともに、パソコン検定3級の取得ができる。							
	学習成果との関連	①	○	②	△	③	○	④	△
週・回	授業内容	準備学習			準備学習時間				
					予習	復習			
	1	コンピュータの知識について	コンピュータについてプリントで復習する			0.5	1.5		
	2	インターネットについて	社会で起きている変化について学ぶ 社会で活用されているデータについて学ぶ			0.5	1.5		
	3	データ・AI利活用	データ利活用の事例の予習			0.5	1.5		
	4		データ・AI利活用のための技術を学ぶ			0.5	1.5		
	5		データ・AIを活用したビジネスモデルを学ぶ			1	1		
	6	実データを用いた演習	時系列データの可視化(Excel)予習しておく			1	1		
	7		平均の算出とその可視化(予習しておく)			1	1		
	8	Excel(VBA)について	VBAを学ぶ(VBAについて予習しておく) プリントP1~P7			1	1		
	9	Excel(VBA)による課題作成	変数と四則演算について復習する プリントP7~P12			0.5	1.5		
	10	Excel(VBA)による課題作成	For Nextについて復習する プリントP12~P13			0.5	1.5		
	11	Excel(VBA)による課題作成	最終行の取得について復習する プリントP13~P15			0.5	1.5		
	12	Excel(VBA)による課題作成	条件分岐について復習する プリントP15~P17			0.5	1.5		
	13	Excel(VBA)による課題作成	条件分岐について復習する プリントP18~P22			0.5	1.5		
	14	情報モラルと情報セキュリティについて	データ・AI利活用における留意事項を 予習しておく			1	1		
15	タイピングのトレーニング	タイピング練習(予習)・総括(復習)			1	1			
履修・準備学習の留意点	コンピュータの基礎知識を学ぶとともに、現在進行中の社会変化や活用されているデータやデータの活用領域について学習する。また、活用に当たっての様々な留意事項を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする。 VBAにより簡単なマクロを作成できることを目指す。								
評価方法	期末試験:50%、ルーブリック評価:50%(意欲・関心、態度、課題提出)								
教科書&参考書	作成プリント								
関連科目									

学習成果 ①専門的知識、理解 ②コミュニケーション能力、論理的思考力等 ③豊かな人間性等 ④課題解決能力等
学習成果との関連 到達目標は学習成果を達成するのに ◎特に重要な科目 ○重要な科目 △望ましい科目

徳島工業短期大学 教務委員会規約

第1条 本学に教務委員会（以下「委員会」という）を置く。

第2条 委員会は、学長が委嘱した職員をもって組織する。

第3条 委員の任期は、1年とする。ただし重任を妨げない。

2 前項の委員に欠員を生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第4条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、教務課長をもってこれに充てる。

3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

4 委員長に事故あるときは、委員長の指名した教務課長補佐が代理する。

第5条 委員会は、次の事項を審議する。

(1) 学生の入学及び進級の認定に関する事項

(2) 教務課程の編成及び改編に関する事項

(3) 学生の試験に関する事項

(4) 自己点検並びに評価に関する事項

(5) その他委員会において審議するのが適当と認められる事項

2 委員会の議を経た事項は教授会の議に附さなければならない。

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員会以外の本学の教職員の出席を求めて意見を聞くことができる。

第7条 この規約を改廃するときは、教授会の議に附した上で行う。

附 則 この規約は、平成2年4月1日から施行する。

附 則 この規約は、平成8年4月1日から施行する。

附 則 この規約は、平成9年4月1日から施行する。

附 則 この規約は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 この規約は、平成27年4月1日から施行する。

徳島工業短期大学自己点検・評価委員会規程

第1条 本学に自己点検・評価委員会を置く。

第2条 委員会は、第三者評価連絡調整責任者（以下ALOと表記。）、科長、関連課長、室長、及び事務局長をもって構成する。

第3条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、ALOをもってこれに充てる。

3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

4 委員長に事故があるときは、委員長の指名した委員が代理する。

第4条 委員会は次に掲げる各号を審議・実施する。

(1) (削除)

(2) 自己点検・評価の実施計画の策定

(3) (削除)

(4) 自己点検・評価報告書の作成

第5条 委員長は、専門事項の点検・評価作業を実施するために、必要に応じ複数の専門部会を置くことができる。

第6条 (削除)

第7条 (削除)

第8条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の本学の職員の出席を求めて、意見を聞くことができる。

第9条 この規程を改廃するときは、教授会の議に付した上で行う。

(附 則)

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

(附 則)

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

(附 則)

この規程は、平成19年5月25日から施行する。

(附 則)

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

大学等名	徳島工業短期大学
教育プログラム名	徳島工業短期大学リテラシーレベルプログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和 7 年度

取組概要

・プログラムの目的

情報通信技術（ITC）の利活用について学ぶとともに、AIデータサイエンスの基礎を実践的に体験する。

・身に付けられる能力

コンピュータの基礎知識を学ぶとともに、現在進行中の社会変化や活用されているデータやデータの活用領域について学習することができる。また、活用に当たっての様々な留意事項を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をすることができる。

・開講されている科目の構成

選択科目「情報処理特論」



・修了要件

徳島工業短期大学 自動車工学科の2年次の選択科目「情報処理特論」(2単位)を取得すること

・実施体制

教務委員会

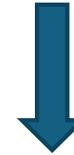
授業改善案



提案

授業担当教員

授業の実施



プログラム受講生

授業評価アンケート



自己点検・評価委員会

分析結果

